

令和 8 年 5 月 20 日

文教厚生常任委員会
委員長 ひさなが 信也 様

文教厚生常任委員 尾崎 貴夫

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 8 年 5 月 12 日（火）

岐阜県飛騨市

「医療的ケア児家族の安心レスパイト支援について」

2. 視察参加名簿

委員長	ひさなが 信也
副委員長	江原 健二
委員	林 哲也
委員	岩藤 睦子
委員	綾城 美佳
委員	橋本 憲治
委員	尾崎 貴夫
委員	田村 継

以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	岐阜県 飛騨市			
視察日時	令和 8 年 5 月 12 日 (火) 9 : 30 ~ 11 : 50			
視察項目	医療的ケア児家族の安心レスパイト支援について			
対応部署名	飛騨市市民福祉部 次長 兼 総合福祉課長 飛騨市市民福祉部 総合福祉課 地域生活安心支援センター主任			
自治体概要	人口 (令和 8 年 4 月 1 日)	21,065 人	面 積	792.53 km ²
	世帯数	8,801 世帯		
	高齢化率	40.81%		
	岐阜県最北端に位置する飛騨市は、面積の約 93%を森林が占める自然豊かな街です。ユネスコ無形文化遺産の「古川祭」や映画「君の名は。」の舞台として知られ、情緒ある古い町並みが魅力です。また、ノーベル賞を輩出した「スーパーカミオカンデ」などの科学研究拠点としても世界的に有名です。名産の飛騨牛や地酒も堪能でき、現在は障がい者も安心して楽しめるバリアフリーな観光地づくりにも注力しています。			
視察内容				
岐阜県最北端に位置し、人口減少という課題を「弱みを強みに変える」チャンスと捉えて街づくりを進める飛騨市では、市長自身の経験も背景に、医療的ケアが必要な子どもたちとその家族が孤立せず安心して笑顔で暮らせるよう、行政が病院との橋渡し役担う「レスパイト（休息）支援」や、近所の人などに介助を頼んだ際の謝礼を市が補助することで自ら助け手を見つける仕組みを応援する「タイムケア事業」といった、公的な支えと地域の助け合いを組み合わせた独自の施策を展開しています。 また、すべての小中学校に作業療法士を配置して子どもの学びを支え、全国でも珍しい市直営の児童精神科診療所を開設するなど、専門家が一人ひとりの成長に寄り添う教育・医療体制を整えるとともに、障がい当事者と一緒に街を歩いて改良を重ねたバリアフリースイレの整備やお出かけマップのアプリ化を通じて、誰もが安心して外出を楽しめる環境づくりに注力しています。 さらに、災害時には「最初の 3 日間は自分の命を自分で守る」という自助の精神を大切にし、実際の避難所生活を想定した医療機器の電源確保や荷物運搬の訓練を行うなど、一人ひとりの「生きづらさ」を他人事にせず、住民と行政が共に考え、支え合うことで、障がいの有無にかかわらず誰もが自分らしく輝ける共生社会の実現を力強く推進しています。				
所 感				
今回の飛騨市への行政視察を通じて強く感じたのは、人口減少や高齢化が進む地域だからこそ、「支援を必要とする人にどう寄り添うか」を行政が真正面から考え、制度を「人中心」に組み立てている点でした。飛騨市は人口約 2 万 1 千人、高齢化率 40%超という厳しい地域課題をかかえながらも、その弱みを「日本の 30 年後を先に経験している地域」と前向きに捉え、独自の福祉政策を展開していました。 特に印象的だったのは、「障がい」をできないことではなく、「やりたいことがやりたいようにできない状態」と定義し、周囲の理解不足や環境も含めて障がいを捉えている考え方です。単に支援を与えるだけでなく、本人の強みを見つけ、周囲の環境を整えながら共生社会を実現しようとする姿勢に、行政の本来あるべき役割を感じました。				

また、医療的ケア児者支援においては、行政が調整役として積極的に関わっていた点も大変参考になりました。レスパイト支援では、家族・病院・相談支援専門員の間に市が入り、関係者とチームを組みながら、支援体制を構築しており、「制度があるか」ではなく、「現場で困っている人をどう支えるか」という実践的な視点が徹底されていました。

さらに、学校作業療法室や児童精神科診療所など、教育・医療・福祉が連携した切れ目のない支援体制は、こどもの生きづらさを早期から支える先進的な取り組みであり、全国から注目されている理由を実感しました。

今回の視察を通じ、支援とは単なるサービスではなく、「その人らしく生きられる環境を地域全体でつくること」だと改めて感じました。本市においても、地域の実情に合った形で、行政・医療・教育・地域が連携しながら、誰もが安心して暮らせる支援体制づくりにつなげていきたいと思います。